



家道訓

六五

用財

9
3455
止 8



口9
3455
3

家道訓卷之五

用財

藏書

貝原篤信編

わづかの生業とつゝめく財をせよとるれど
一、又俵約をゆるして財をたふしのみす。
り、ゆいして家業よおこりてつゝめく。
財とるよりつゝめくして俵約をゆるさへ。
困窮の基^{モト}をゆるさへとる。故よあをそ。
ゆい財を足とる。富良もいふ。家
業と勤しむ。又財をたふらて共い

さうなる。倭約を結ぶ事あり。凡士農工
商皆之。家職カシヨクとて。つゝめく。おこし。是
結をせしむるの事也。又倭約ありて。みづりに
つゝめ。さうなる。結となし。この道也。此つゝしる
と倭約との二と。よく家となし。つゝめ。ちやう
利あると。ちやう事ある。あう。さう。し。さう。ちやう。求む
され。も。家業。成。つゝし。し。ち。中。に。その。は
つゝめ。り。げ。う。倭約を結ぶ。よ。つゝ。大。富。貴。
乃。人。家。材。福。来。多。う。と。り。も。結。い。う。さ。り

あつ。め。る。れ。い。倭約あり。され。後。も。必。結
つゝ。め。は。つゝ。め。く。さ。う。わ。つ。家。よ。ある。亦。乃。結
を。さ。う。り。る。く。は。つゝ。い。月。あ。つ。家。材。の。育。意
と。考。へ。あ。つ。つ。て。家。又。月。の。ハ。園。新。れ。基。也。
あ。つ。め。さ。し。る。ハ。園。を。め。さ。し。る。ハ。同。一。結。と。月
い。人。と。月。め。け。つ。も。さ。つ。つ。し。り。一。變。る。又。め
し。て。ぬ。と。ぬ。さ。う。ち。つ。は。あ。つ。い。く。つ。う。い
結。を。は。つ。さ。う。さ。う。し。り。一。結。と。は。つ。さ。う。さ。う
か。つ。も。さ。う。さ。う。け。さ。い。我。の。利。欲。の。い。い。さ

みづのふつやさん。外のおごりさまの
 るとて。人々には。めく。ト人々。まう。せに。家
 財の多少有。き。成。く。り。お。業。と。つ。め。く
 お。ご。り。さ。く。然。い。さ。く。お。ご。り。お。ご。り。の
 ね。ご。り。よ。さ。付。と。失。る。つ。と。は。合。と。じ。な
 ら。と。ま。つ。る。もの。あ。い。と。さ。く。け。の
 い。人。乃。財。と。る。さ。く。と。さ。い。わ。の。財。祿
 の。か。ゆ。と。て。事。足。り。く。外。よ。求。め。と。財。を
 用。る。事。う。の。家。祿。の。を。所。ふ。趣。く。て。こ。さ

あきらめくものゝちなる人の必人乃いそあ
そふ、きく用てあせりい
あきらめく保^{タモ}つとよく保つとらといふ^{オホ}夫の徳
不徳のふたあはれ又妻の^タ好のそあ
ふれ^タち人あはれして良妻を思ふといふ
かんも^ラじ^アたり。まゝ外とあはれ妻も心
とあは^イじ^ミるが^イ職^イ分^ミち^クり。まゝよく^キ勤^ン候^ケるれ
ともあ^キり。教^キ道^ウよあ^キら^テて^アあ^ハれ^タ。
アそ^キ候^ケるゝと^キれ^ハあ^ハれ^タなり^ラう^ア。

とくつておとこはうらふ。是ぬ人乃ほ
かりがのこしけりてよく家となりし
まゝわれも老いむにわかれども必^{かならず}婦^{めかけ}を教^{しん}
て家を治せしむ。

儉約と稱く敵をたりし。必ずく抑まんハ
 うとて約なき一約ははりてハ己んを
 しきふんわうさ時より中年まで書生を
 以て腹好色乃態とほいぬくけり。既
 みにて漸書生とほいまんをす。り

かしはるふまされとも。おろろく
のらひ益とくちんくく

材と用ふふて身とよお急のふを^{サカ}なり。
 是を^{サカ}節といふ節といふに^{サカ}なり^{サカ}節と
 する^{サカ}とあり^{サカ}節よ及い^{サカ}それハ^{サカ}各^{サカ}書^{サカ}と
 ち^{サカ}節とち^{サカ}ハ中^{サカ}に^{サカ}る^{サカ}道あり

氏いえといふききりとなさえてくお材の
 分派^カも無くて用ひるゝも派の和にうえ
 て用ひるゝ派がよりいえとなさえて私^ニ

勢とあつゆつはつとあつてかと思はれは
 ぐう。なよりしては欲よりまゝに
 と。又世情のまゝとあつては儉約は
 さいごうとらう。孤月のとらうい
 欲よりまゝとらう。孤月のとらう
 欲よりまゝとらう。孤月のとらう
 欲よりまゝとらう。孤月のとらう
 欲よりまゝとらう。孤月のとらう

倭約ありて材をつつやさるゝいふ良法あり。
然る倭約と約す事とせし材とおしそ

て礼義ともいふ仁義といふことなるに鄙狹
と云へし。儉約はありて是を吝嗇と云ふ。不徳を
こゝに礼義とつとめく。材を用ひてくわふて
きつめく。材をねいするといふ。然る
ていふ多量と云ふ。またおのゝ材を
ひく。ひく。わの身やる。儉約して人々
ひく。材とあり。徳とあり。是を吝嗇と云ふ。わの
みとをとりつとめく。礼義と云ふ。人よ徳と
こゝめく。また云ふ。不徳をねいする。

古の賢王は時に民よ土貢をゆるし人のも

家通川五

を用ふふをを用ふ

俟約と結るいおらつたをいふ義とてこ
のまゝにして銀貸とてくくをく或は年一り
わいりいも病死に乃ち又嫁嫁のつら
水大盗賊のわらひに軍用とてくく
とてくくも金の時乃ちまづ人の多き
嫁をすくくはゆつて銀貸をいふも
乃ち又は金とてまづくく人れ困窮す
くく

借の一字いふと借るの基也。一字はく禁

とて。財福の多少を身小身は限り
も分限の肉とて不足をたすに財を用
ゆ。とて。とて。とて。人よ借る人
と分限の肉を用ひるをば必財とて
して人よ借る。財を借れ。年々に利息
をま。利息は又利加り。はよつと
て。いふ。いふ。いふ。いふ。必家産と
する。借る。利息は人よ。いふ。後

つらけ縁の分限をわとれ。後の困窮と考
へて。通財の嗜慾はあきらめ。さうして
財を利あるに。必財あるに。財不足に。た
よりて。廉恥の心を。つとむ。礼義を。約
せしめて。父母のやうに。うとむ。人乃
多。窮と。とく。うとむ。人の困窮と。あま
び。あま。うとむ。財を。あま。うとむ。財つと。じん
さ。うとむ。れ。軍用。あま。うとむ。是。家。と。た。も
ら。財。と。あ。る。る。を。あ。う。た。れ。い。ち。り。後。れ。い

そ。財。と。あ。る。る。を。あ。う。た。れ。い。ち。り。後。れ。い
を。あ。う。た。れ。い。ち。り。後。れ。い。ち。り。後。れ。い

家道訓卷之五

家道訓卷之六

用財

貝原篤信編



親戚朋友は利をかり取りたる所より利を
換へたる所には我利運のよく悪くとれハ
快くもなる所あり。さうも亦もわづら
を少換失する所といふは。何よりなく
我も人もたうし。いふ。我はかゝる所
乃程あつて。是非と論。さの利のあ
は。あつて。人をさうめて。人乃をとり

かなぐり多し人よ袖をかきとるおしめとど
 海も全^{ニツタ}くわの換^{ニツタ}失あふんとすれは事ゆ
 うけしとゆえれごうが少も袖とともさへ
 無のふくくつづらうやけは是よりうりた
 つたえ家のふめ少も害^{ガイ}なり

人と交^いふを^レ過^りて人の妨と費^{ツクイロ}
しどくは人のつゝえ成^{なり}てどしてよめ
よつゝえあ^なん^んのつゝえとひさう身
の中にもあるはるじやうかきとくやう乃

る。六つ、心術シンジュツの害ガイとをねらふ。二つ、人々を
しどろしどろおそれさす。一つ、ニヒトヲシテ材とせりと
るに庸直ユウチクありけしきほりあまといひげよん
みやりいごさうくものちり

親戚故舊朋友のまゝとてき老の故紙紙
うへまぐらうにあらうしく故をとりて
傍とへうにあらうと我仁をのりて
てまゝに快く彼もまゝに感ぜしむ
そのものいふく故をとりて故よりあり

[illegible]

かり祿をぬぐひていふゆゑなりとて
 して後^しを^ま務^むむなりといふは幼と償^{しん}むるを
 以^もて^もた^たふより人^{ひと}に^にお^おく^くも^も。是^この時^{とき}に^にお^おく^くは
 忘^{わす}れ^れて^ては^はく^くの^の人^{ひと}を^をさ^さぐ^ぐは^はい^いづ^く中^{ちゆう}
 に^にあ^あか^かう^うに^にる^るも^もう^うね^ねま^まる^るも^もと^とぬ^ぬれ^れ
 る^る時^{とき}に^にい^いや^やと^とさ^さう^うと^とあ^あら^らう^うや^や。
 わ^わる^る方^{かた}の^の難^{がた}儀^ぎを^をし^し人^{ひと}の^のあ^あら^らう^うを^をく^く
 ぬ^ぬく^くも^もう^うす^すれ^れら^らう^う人^{ひと}を^をさ^さぐ^ぐや^やら^ら。然^{しか}も^も
 う^うも^もう^う幼^この^のと^とい^いや^やと^とつ^つの^のい^いさ^さう^う何^{なん}處^{ところ}あ^あら^ら

こゝに來ねん。故と申すは老うゝゝりた
とんとて中絶^{ナカセツ}るふゝゝゝ威^イゝゝゝゝて
わゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
こゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
みゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
そゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
はゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ぢゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

親戚^{シンセキ}朋友^{トウユウ}よぢゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

神ちちあゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
はゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
て返^{ヘン}ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ぢゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

卷之六

欽定四庫全書

六

農工商乃家父のゆつろと受けく。田比と材
多くとゆつろなからて失ないといふ
子孫のゆつろも孝也。家業とてくはあ
ておこしに。儉約やてみえに材とつ
りやされぬ。氷く又乃ゆつろとならて
子孫の傳ふ孝とて。是誠良民と云
ゆ。おこりてつろと材とつりや。じ
やくも田比つろと材を失ない。あともうて
困窮といふる者多し。不孝の是とて

是と頑民と云

管子曰。人情而後則。然力而後則。富が
そ人家の貧さの情。つろと後。あふれり。
富の勤。つろと儉。ちるふれり。け理をよ
くおほく。放は家といふ。つろの勤。儉乃
二とけつ。是要道なり
あとなら。幼と用ふ。人乃生け。より
て。けり。とゆつろ。とつろ。とつろ。とつろ。
く。つろ。細。つろ。人。と。け。道。と。つろ。

一ぢう人々うゝあつてわうぢううま
とわゝあつてうゝまればけふはうせあつて
けふては困窮^{コウキウ}はうゝ

人々も材と用^{ヨウ}の道とあつた後
うゝ必^{ヒツ}死^シ窮^{キウ}は苦^クし。薄^{ハク}福^{フク}の家も材と
用^{ヨウ}の小道の道いふ苦^クれ。賢^{ケン}さる人の國
天下とふうたりつて小^コなる家となも
わうぢううゝつてうゝ。結^{ケツ}まゝの家はと
る人の材と活^{カツ}うゝ家とふうたりつて材^{サイ}

とじひとてをよめて今^{イマ}の人多くを
家ともの材とあつた。貧^{ヒン}困^{コン}はうゝうゝぬ
まはせりうゝつとわうゝも幸^{カイン}とてうゝめ
てうゝもばうゝうゝ。世^セをうゝめうゝの
月^{ツキ}とゆゝと人々い道^{ミチ}の材とてうゝ。家^カの困^{コン}
窮^{キウ}とてうゝひと人々うゝうゝとてうゝて
つううゝうゝとてうゝてうゝて

材^{サイ}福^{フク}はうゝうゝあつて。松^{マツ}歌^{ウタ}はうゝうゝうゝ
とある材^{サイ}とてうゝてうゝうゝうゝうゝ

せくつ必材つとて困窮と面ある人も
一も人も候約とて抱くに嗜慾とて
急は合衣服家持ちとてより川の舟わ
舟よりうろくすくはるるに足ゆらう程
よりあひくよれはくた人へ解よあ
かひのそくしてやうくはるるに乃
財福を用ひつらとてあまらなく不きな
くもあひまひくは小祿の家も人へ
戒むる及くす祿のあまはるの傳事

か派もあひくははるせあひくは
くも後のあひくはくはくはくは
らと人乃婦ありはもの若くは子孫の
不業とあひくは人よはくはくは
ととくはくはくはくはくはくは
婦とあひくはくはくはくはくは

あひくはくはくはくはくはくは
くはくはくはくはくはくはくは
あひくはくはくはくはくはくは
あひくはくはくはくはくはくは

堯^{ミヤコ}乃^{ミヤコ}時八年の流^ユあり。湯王^{ミヤコ}の時七年旱^{ヒデナリ}なり。堯^{ミヤコ}乃^{ミヤコ}時八年の流^ユあり。湯王^{ミヤコ}の時七年旱^{ヒデナリ}なり。

後乃事をも急せり人。當時身の中へあひ
 母おら。酒食とゆへうや。家持とよく
 衣服とより。歌とほくわういへく費と
 あふけ。財つとわもい人より。事とこし
 と。財とくと人ふ。あまの昔あて。あふ
 ちる。とこのじ。是眼あて。使うて。後乃
 笑とより。す。財より。あひ。今より。人より。財を
 う。て。人より。傷り。あふ。ちる。ふ。傷より
 財より。年より。利息より。り。ゆき。い。ゆ。く。財

つゞてられる物をこのへんからしめて
必要とする物はよくはらうとせよ
う。後の憂^{うれ}ひ針^{はり}と糸^{いと}を
けり多くは富る人ぞあはれまゝに
とわれとしておぼえられぬやういふ
なからて失くさぬやうにほめ
る人ぞちのちの世にあらた
してあらされいなくとも世に
失くすと

一、又人の材とて思ふは又愛する物に價とい
 ふる。是又けしき事也。さういふ者より思ふと
 るればさういふに違ひなくしてぬくもさ
 ういふとこれ家を成るの故なり。材を以
 て用ゐるやいかゞ愛する物のあつたを惜みず
 つこの返りて是と父の言は補へん考の
 道也。又人の材を思ふにいかに思ふといふもの
 まるは使ひに違ひなくしてさういふも材と異なる人
 材といふは、（一）材なるを思ふといふや、（二）材の

[illegible][illegible]

おどろてけり。あまゝなる人々。とて年々。は用ゆる
材と。一年より。つるや。けくも。たへん。云々。
せむ。ちなる人。惣と。けり。あまゝい。と。れん。而。て
の。元氣と。一。時。より。と。身と。失る。ふ。り。ぬ。

山寺なり。曰く深念フカク煩鄰里ヒロミヤサリ思窮禁貸シキウキンツケ賒シヤチひ
 情のさへ人の物となり人の物をせよとのり
 ひく返されいへば郷里人のよくいなる
 とありてと棄して自分の靴紐をこけて人
 の物とする。人の物をせよといふこと
 をききかたしむるの道なくわくとん。
 財をせしむる者物をとりて老のうまひ
 らうばやいとうとてけり。けり人ハ家
 とかれと靴紐とをうそくするものたる。

家材といふは、もとて人の材と云ふ。故
 は今附の如く人としての材と云ふ。是
 一武小祿の人と材のさうありて、
 の材の如く、もとて人としての材と云ふ。
 是つて、必家材不足と云ふ。今の人と云ふ
 なるは、高附の材は、もとて人としての材と云ふ。
 後の如く、もとて人としての材と云ふ。
 人といふは、もとて人としての材と云ふ。
 是つて、必家材不足と云ふ。今の人と云ふ

庶人ありて義なきもの
 なくはんとせむと人とな
 るをば、^あぢくひ終らひて人、^あ欺^あけられ
 悔^あとる事あり。故に^あ咎とあづきふる
 事、^あげりよつとひくあてみん、ふ
 するに、^あ人々必人とあひひく^あ咎と
 うとせよとこのじ。さうとる事、^ああつて
 も、^あ善の事とせよとせよとせよとあ
 せり、^あ悔あり

夫^{ヒシ}家^カは男子多くいづ^{ハカリコト}。〇く〇く産業^{サンギョウ}を立
 不^{ハカリコト}計^{ケイ}ともいづ。夫^{ヒシ}家^カは女子すれいづ^{ハカリコト}
 といひて嫁^カする時の装^{サウ}をさうする
 くらゐとさういふ女子すれいづ^{ハカリコト}村^{ムラ}と
 若^{ニギハヤヒ}根^ネよくさうする時の装^{サウ}をさうする
 恥^{ハジ}とせうたやうに板^{イタ}と多くうて女
 子の装^{サウ}を恥^{ハジ}する者今もあつた。はのうと
 〇く〇く計^{ケイ}するさういふ村^{ムラ}はさう
 福^{ハカリコト}とさういふ家はさうさういふ〇く用^{ヨウ}を

かたれハ女子の嫁^カする時の装^{サウ}をさうする
 〇く〇く計^{ケイ}するさういふ村^{ムラ}はさう
 む人^{ヒト}いふく村^{ムラ}とさういふ村^{ムラ}はさう
 富^フ家の家^カもさういふ人^{ヒト}て儀^{ニギハヤヒ}は前^{マエ}より
 物^{モノ}あり。さういふ家^カはさういふ村^{ムラ}はさう
 のさういふ家^カと法^{ホウ}布^フ。装^{サウ}材^{サイ}とさういふ
 用^{ヨウ}脚^{キョウ}とさういふ儀^{ニギハヤヒ}はれうさういふ
 さういふ〇く〇くさういふさういふ
 ちやうど

また又^{クダモ}菓^ミをいす。就^レ大^ビなる物^{モノ}の何^{ナニ}なるに
して人^{ヒト}は害^{ガイ}ある物^{モノ}。皆^{みな}人^{ヒト}よりなるものなり。
物^{モノ}よりして人^{ヒト}のものをいふ。そのものなり。
物^{モノ}は海^{ウミ}をめぐらう。うらう。うらう。うらう。を
らう。うらう。

故人^{コジン}とつう。其^{その}の情^{ナガレ}よりある。其^{その}の
とある。故人^{コジン}乃^{すなは}公^{こう}悦^{えつ}服^{ふく}を以^{もつ}て。故^こ福^{ふく}紙^し
わ。これの情^{ナガレ}にてよく。一^{ひと}は多くあ
る。人^{ヒト}よりいふ。つ。何^{ナニ}なる。これの情^{ナガレ}にて。

多くある。久^{ひさ}くある。これの情^{ナガレ}にて。
す。これの情^{ナガレ}にて。はの情^{ナガレ}にて。物^{モノ}とある。
それ。婦^ふ人のた。て。実^{じつ}なる。人^{ヒト}は。
と。成^{なり}つ。さ。功^{こう}を。あ。軍^{ぐん}と。い。わ。ぬ。
も。その情^{ナガレ}にて。福^{ふく}と。ある。これの情^{ナガレ}にて。士^し率^{そつ}
乃^{すなは}我^{われ}功^{こう}を。福^{ふく}と。ある。これの情^{ナガレ}にて。
は。あり。み。これの情^{ナガレ}にて。ある。これの情^{ナガレ}にて。千^{せん}金^{ごん}と
る。人^{ヒト}より。い。ふ。と。又^{また}一^{ひと}言^{ごん}の情^{ナガレ}にて。千^{せん}
金^{ごん}は。ある。事^{こと}。あり。

儉約めてわの身よあがりたれといへばと云
人これをよもうと云う人よ射て射と云
こそ人よはくこそ人ようすくこれ
あつと云う人皆つちこそは是不
なり各番と云儉約と云くやゆと云各番
と云うと云あり。儉約と云うと云うと云各番
のあり。皆つちと云なり

東坡つちの蔬食のときと云あり。蔬食とい味の
淡味なり物をと食と云と云一といふと安と

人といふ福を中なり。是といふと云なり
二といふ胃と云くといふと云氣化中なり。是
ハ肥濃なり。多味と云くといふ胃の氣
と云うなり。是といふ費と云うと云射
を云う。是淡味なり。物ハ射の費なり。是
も又射をたなり。是といふはあり
ひらきあり。是といふの穴と云うと云射
と云う。是といふは射なり。人なり。是といふ
と云う。是といふは射なり。人なり。是といふ

穀^{コシ}肉^{ニク}を食^タつていじうの人れ本の業^ノの
根^ネと食^タつていじうの今^{イマ}れ^レ餓^ウもやうの人を
ふれ^レいじう。いじうといふていじう。いじうといふていじう
一の^ハ本^ホの^ノ業^ノといふていじう。いじうといふていじう。いじうといふていじう
くといふていじう。いじうといふていじう。いじうといふていじう
う。いじうといふていじう。いじうといふていじう。いじうといふていじう
か。いじうといふていじう。いじうといふていじう。いじうといふていじう
く。いじうといふていじう。いじうといふていじう。いじうといふていじう
いじうといふていじう。いじうといふていじう。いじうといふていじう

いじうといふていじう。いじうといふていじう。いじうといふていじう
外^{ソト}といふていじう。いじうといふていじう。いじうといふていじう
用^{ヨウ}といふていじう。いじうといふていじう。いじうといふていじう
と。いじうといふていじう。いじうといふていじう。いじうといふていじう
け。いじうといふていじう。いじうといふていじう。いじうといふていじう
て。いじうといふていじう。いじうといふていじう。いじうといふていじう
あ。いじうといふていじう。いじうといふていじう。いじうといふていじう
いじうといふていじう。いじうといふていじう。いじうといふていじう

右家道訓之卷者。益軒貞原先生之所著也。先生今在八十
之。二歲。而教。讀書。得。授。後。可。謂。老。而。益。壯。者。矣。予。以。此
公。出。入。先生。之。門。有。年。仍。乞。此。書。再。四。遂。登。梓。以。公。于。世。為
望。吾。家。道。之。訓。哉。自家。傳。家。起。發。於。國。家。治。教。一。方。之。味。必
無。小。補。云
正德二壬辰年孟秋吉日
書
後城信清謹書



文化十二乙亥年

勝寫喜六郎藏板

心齋橋筋南本町

大坂書林

上田嘉兵衛

六角通鼓屋町東八町

小川多左衛門

寺町通錦小路上町

皇都書林

上田半三郎

二條通寺町西八町

山中善兵衛

